Sanriku-geopark

さんりくジオだより

第１０８号
令和７年７月号

三陸ジオパーク推進協議会

釜石の古生界と三陸の地質図の謎　～南部と北部は西？東？～

「大沢川流域の古生界化石産出露頭群」（釜石市指定文化財　天然記念物）は、南部北上帯と北部北上帯が合わさって（合わさる＝方言）いるであろう辺りに位置します。

４つの時代（古生代後期シルル紀～石炭紀～ペルム紀）の露頭が歩いて回れる範囲にあるとても貴重なその場所を、三陸ジオパーク認定ガイドの藤原信孝さんが案内するという情報を耳にしたら、行かないという選択はありません。それは釜石市ウォーキング協会の活動の一環でしたので、普段から運動不足な私は半分の５㌔コースに飛び入りで参加し、３０名ほどの参加者の皆さんと共に山道を歩いてきました。

この露頭群のある場所は、釜石市の中でもアクセスが難しいジオのサイト「千丈ヶ滝」の近くで上流の方の北側になりますが、橋野鉱山方面につながる別の山道から向かいます。秘境の地までの道は山林を切り出している場所もあり、とても整備されていて歩きやすく、ガイドと共に大勢で行く方が熊対策にもなり、安心して進むことができました。

リンボクの化石が産出されたという千丈ヶ滝層は古生代後期シルル紀～デボン紀。小川層は古生代石炭紀。そして栗林層は古生代ペルム紀。つまり、約１億7000万年間ものタイムトラベルが、わずか１時間ほどのウオーキングで体験できる、とてもめずらしい場所！というガイドの説明に、参加者のワクワク感も高まりました。

それぞれの露頭は当然その表情も違い、約４億年前からつながる壮大なジオストーリーに思いを馳せていました。（参考：「千丈ヶ滝」は下記マップ中77の場所）

藤原ガイドの説明に耳を傾け（栗林層）

千丈が滝層（左）と小川層（右）

北部と南部の境界あたりとか??

三陸ジオパークGeoマップより

そしてガイドの話に出てきたこと＝北部北上帯と南部北上帯が東側と西側に位置する??　聞いただけでは、キツネにつままれた状態になり・・・「そうそう！」と地質図で確認したくなりました。すると釜石市は、北部北上帯と南部北上帯の境界あたりが南北（縦）に走り、その右側（東）は北部で左側（西）が南部ということなのでした。まさにジオパークの真骨頂。サイトのある場所とその地質図の関連が分かって「なるほど納得」できました。

釜石市ウォーキング協会では、鮭ヶ崎灯台や千畳敷、橋野鉱山などにも出かけているということで、実はジオのサイトをすごく活用いただいている皆さまなのでした。きっと地域のイベントでも、気づかないジオ話が行き交っているのでは、と思いうれしくなりました。今回は飛び入り参加を受け入れて下さり、現地に行ける貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

「もーりぃ　の　さんりくジオ話」
三陸ジオパーク専門員の盛合秀がお届けします

オンラインで美祢市に登場

４月20日（日）にMine秋吉台ジオパーク（山口県美祢市）で開催された、防災・減災イベント「第４回　シル・マモル・カンガエル」にて、オンライン講師として「災害に備えて今からできること」というテーマでお話させていただきました。

美祢市のこどもたちにとってあまり身近ではない地震・津波についてのお話や、美祢市が２年前に大雨による被害を受けていたことを踏まえ、大雨関連の災害が起こった時に取るべき行動や日頃の備えについてもお伝えしました。

講演の最後には、三陸で語り継がれてきた「命てんでんこ」について紹介しましたが、この講演をきっかけに、少しでも防災に対する意識を高めていただければと思っています。

※イベントの模様は、以下URLよりご覧ください。

https://mine-geo.com/img/document/letter/no0129.pdf

先日、津波警報が発表されたケースがありました。自宅や職場などの周りにどのような災害リスクがあるか改めて見直すなど、災害への備えについて考えてみてはいかがでしょうか。

旧吉田家住宅主屋（岩手県指定有形文化財）を見学しました

東日本大震災津波から１４年の時を経て、陸前高田市の旧吉田家住宅主屋は５月23日に開館し、再び多くの来訪者を迎え入れています。

震災時気仙川を遡りあふれ出た大津波は１８ｍを超え、吉田家住宅をはじめ築２００年以上の貴重な地域の建造物を容赦なく襲い、歴史ある町並みは全滅しました。

近隣の住民から再建の希望が多く寄せられ、また奇跡的に主屋の建築部材の６割が回収されたことから、多くの専門機関や関係者の支援を得ながら一つ一つ調査や検証、洗浄など数多くの復旧作業が進められて令和７年３月に完了しました。

再建された主屋

茅葺屋根の内側は補強されている

建物内に掲示してある説明文や写真を見ながら各部屋を見渡すと、現存する被災した建材と失い補われた部分に使われている新しい建材が随所に見受けられ、この歴史的な建造物の津波被害を受けた木造文化財としての新たな価値も伝わってくるようです。

また気仙大工左官の精巧な木組技術や、欄間や戸袋など建具の細部にわたる職人技にも感銘を受けました。

ボランティア活動などで携わった方々にも、完成した姿を見に来てもらえたらと思います。

主屋入口付近

建物の土台を支える石にも注目

編集後記：実際に現地に見に行くとわかることが多いのですが、旧吉田家住宅の流された建築部材のうち、屋根に使われていた茅は南側に３００ｍ離れた場所で発見されたということから、引き波で持っていかれて小高い山のふもとで止まったのでは？という推測をしていました。ちょっとした地形的な条件でも被災状況が大きく違ってきます。

主屋が再建された位置は変わらないのですが嵩上げした場所になることから、中庭の池に映る景色は震災前の江戸時代から見上げたそれとは違うかもしれないという案内版に目が留まり、とても心に残りました。　～と～

三陸ジオパーク推進協議会
〒027-0072
岩手県宮古市五月町1－20
宮古地区合同庁舎2階
TEL:0193-64-1230
FAX:0193-64-1234
info@sanriku-geo.com
https://sanriku-geo.com/
Facebookはこちら